

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3149639号
(U3149639)

(45) 発行日 平成21年4月9日 (2009.4.9)

(24) 登録日 平成21年3月18日 (2009.3.18)

(51) Int.Cl.

A 6 1 N 1/18 (2006.01)

F 1

A 6 1 N 1/18

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 7 頁)

(21) 出願番号 実願2008-7598 (U2008-7598)
(22) 出願日 平成20年10月1日 (2008.10.1)(73) 実用新案権者 506095087
山内 金太郎
青森県十和田市大字相坂字相坂90
(72) 考案者 山内 金太郎
青森県十和田市大字相坂字相坂90

(54) 【考案の名称】 ダイオード入り皮膚刺激療法器具

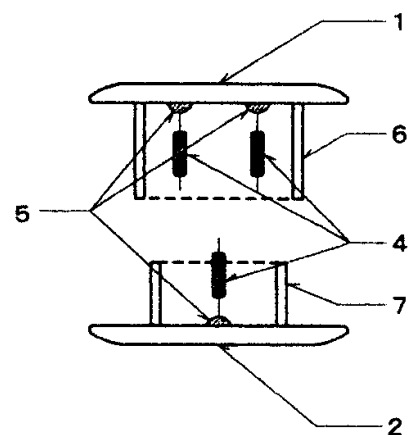
(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 接触面を広く、長さを短くし患部に固定もでき、手に持ちながらも手技療法などと併用出来るマッサージャーを提供する。

【解決手段】 皮膚刺激療法器具は、上部接触面金属及び下部接触面金属の黄銅製導電材からできている。上部接触面1の内部面及び下部接触面2の内部面にそれぞれダイオード4の特性を一方方向に向けて溶接5したものである。上部外筒部6及び下部内筒部7の隙間に接着剤を入れ上部接触面1と下部接触面2を組み合わせることで絶縁したものである。

【選択図】 図2

断 面 図



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

瀉的上部接触面（１）と補的下部接触面（２）を完全分離しダイオード（４）の整流作用を高め、さらに接触面積は広く器具の長さを短く使いやすくした皮膚刺激療法器具。

【請求項 2】

本考案の上部接触面（１）・下部接触面（２）内部に入れてあるダイオード（４）の反応で、コリや痛みの部位を補的もしくは瀉的が適しているか、その検査方法は本考案の上部接触面（１）か下部接触面（２）をコリや痛みの部位に当て、施術師が手首を振る感じ方や手指２本でさする感触の抵抗感とか、又は施術師が患者の片手の指二本の引っ張り強・弱、もしくは糸の長さ１５～２５センチ位の先にある物体を取り付けて、右もしくは左回りで補法瀉法を確認することができる、又東洋医学での脈疹を診るやりかたもある、ただし皮膚に直接か薄い下着は検査は可能であるが厚着では不可能である、よって薄い下着の上からでも効果がある、又この検査方法はすべてでないが医師・針灸マッサージ師その他治療師が別の治療法に応用している方法である、特に患者の片手指二本の引っ張り強・弱の検査方法は広く知られている、当考案の皮膚刺激療法器具はこの検査方法で効果があることに着目したものである。

10

【請求項 3】

針治療や理学療法の機種によっては、男女問わず衣類を脱ぎ施術する為、脱ぐことに抵抗のある女性もいたが、本考案では薄い下着の上もしくは髪の上からでも皮膚刺激療法ができるものであり、東洋医学の文献には治療時間が長いときは補法が適していることも記載されている、よって長時間使用するときはマジックベルトなどで固定しながら使用するものである。

20

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は薄型で皮膚つまり患部への接触面積を広くし、ダイオードの整流作用を利用し身体各部の電氣的バランスを調整して身体の治療力を高めようとした皮膚刺激療法器具である。

【背景技術】

【0002】

30

従来のダイオード鍍針は両端が直径３ミリと１０ミリであり長さが約１２０ミリである、使用方法是

手に持って患部に刺激を与えた。また、固定の場合には数本束ねて使用するため治療部位によっては、固定が容易ではなかった。身体が本来有している微小電流に無電源で身体に対してダイオードの整流作用を及ぼすことによって、血行不良その他の要因により身体局部に偏在した負電荷または正電荷中和させ、これにより身体のバランスを正常状態に回復するようにしたものである。

【特許文献 1】特開 2007-222573 号

【考案が解決しようとする課題】

【0003】

40

従来のダイオード入鍍針（図 5 で示す 10）は、長さ約 120 ミリ前後で両端の直径は 3 ミリと 10 ミリできており、本考案は接触面を長径 40 ミリと広く、長さを約 20 ミリと短くし患部に固定もでき、手に持ちながらも手技療法などと併用出来ることを目的としたものである。

【0004】

従来のダイオード鍍針はテスターで測定すると導通しており、本考案はこの問題を解決しようとするものである。

【課題を解決するための手段】

50

【0005】

上記課題を解決するために、上部接触面（瀉的１）と下部接触面（補的２）を絶縁し、ダイオード（４）の整流作用を高め、さらに前記の上部接触面（１）、下部接触面（２）は広く、長さを短く、また患部への固定も容易にした皮膚刺激療法器具を提供したものである。

【考案の効果】

【0006】

図１のように長さを短く、接触面を広く上部接触面（瀉的１）、下部接触面（補的２）が接着剤（８）で絶縁されダイオードの整流作用を利用したため、以前より治療効果を高めることが出来る。

【0007】

本考案の補瀉絶縁型ダイオード入り皮膚刺激療法器具は、電源が不要で使用回数にもよるが数年間は使用でき、場所を問わず使用することができる。

【考案を実施するために最良の形態】

【0008】

以下本考案の実施例を添付図面に基づいて説明する。

本考案の補瀉絶縁型ダイオード皮膚刺激療法器具は、図１で示す上部接触面金属（瀉的１）及び下部接触面金属（補的２）の黄銅製導電材からできている、図２に示すように上部接触面（１）の内部面及び下部接触面（２）の内部面にそれぞれダイオード（４）の特性を一方向に向けて溶接（５）したものである。そして図３に示す上部外筒部（６）及び下部内筒部（７）の隙間に接着剤（８）を入れ上部接触面（１）と下部接触面（２）を組み合わせて絶縁したものである。図４に示す上部接触面（１）及び下部接触面（２）の直径は約４０ミリあり、また上部接触面（１）、下部接触面（２）の間は約２０ミリの薄型となり、マジックベルト等で固定できるものとする。皮膚に傷を付けないように面取り（３）をほどこした、そして、上部接触面（１）下部接触面（２）の間に人差し指と中指を挟んでの皮膚刺激療法やリンパマッサージ療法も出来るものとする、さらに固定のみであれば２０ミリ以下にも薄くできる、また図４に示す（９）は凹を付けることにより上（１）・下部接触面（２）を判別し視力のない方でも使い

やすくしたものである、図５に示す従来のダイオード鍍針１０は、長さが約１２０ミリ前後で局部治療には適していたが、固定治療には、１２０ミリでは、長すぎて固定治療には適してなかった、又内筒に入れるダイオードの本数を変えることで強弱がみられる。

【図面の簡単な説明】

【0009】

【図１】補瀉絶縁型ダイオード入り皮膚刺激療法器具を示す外観図である。

【図２】上部接触面部と下部接触面部に方向性を持たせてダイオードを溶接した断面図である。

【図３】上部外筒部と下部内筒部の隙間に接着剤を入れ、絶縁した図である。

【図４】本考案を実施した斜面図である。

【図５】

従来のダイオード入り鍍針約１２０ミリの外観図である。

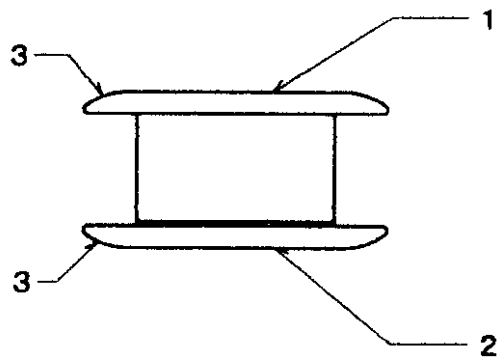
【符号の説明】

- １、上部接触面
- ２、下部接触面
- ３、上部、下部接触面の面取り
- ４、ダイオード
- ５、溶接部
- ６、上部外筒部
- ７、下部内筒部

- 8、接着剤
- 9、凹みをつけ上・下部接触面の区別
- 10、従来のダイオード鋲針の外観

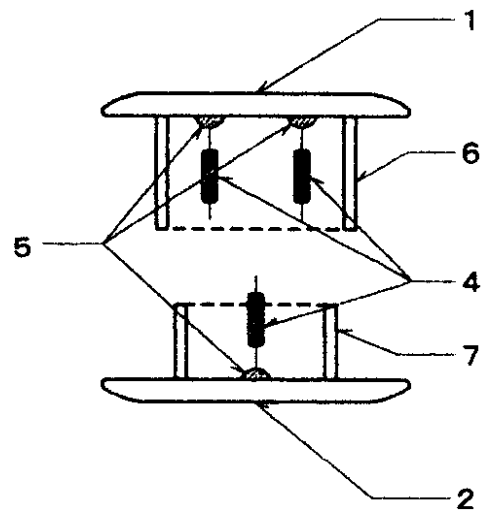
【図1】

正面図



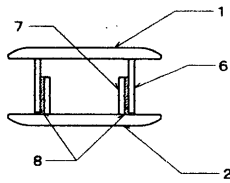
【図2】

断面図

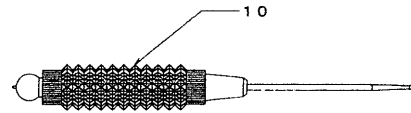


【図 3】

断面図

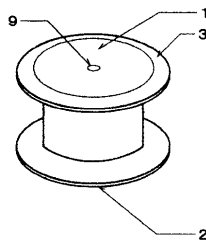


【図 5】



【図 4】

斜 面 図



【手続補正書】

【提出日】平成21年1月7日(2009.1.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

黄銅製導電材料から成る円形筒状上部接触面（1）と円形筒状下部接触面（2）の上部接触面筒内部、下部接触面筒内部にダイオード（5）の整流作用を利用して一方向に流れるよう溶接し、上部接触面筒内部、下部接触面筒内部（8）の隙間に接着剤を入れ絶縁し円形筒状上部接触面（1）と円形筒状下部接触面（2）が互いに異なる整流を有するように配列したことを特徴とするダイオード入り皮膚刺激療法器具。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は薄型で皮膚つまり患部への接触面積を広くし、ダイオードの整流作用を利用し身体各部の電氣的バランスを調整して身体の治癒力を高めようとしたダイオード入り皮膚刺激療法器具である。

【背景技術】

【0002】

従来のダイオード入てい針は両端が直径3ミリと10ミリであり長さが約120ミリである、使用方法是手に持って患部に刺激を与えた。また、固定の場合には数本束ねて使用するため治療部位によっては、固定が容易ではなかった。身体が本来有している微小電流に無電源で身体に対してダイオードの整流作用を及ぼすことによって、血行不良その他の要因により身体局部に偏在した負電荷または正電荷中和させ、これにより身体のバランスを正常状態に回復するようにしたものである。

【特許文献1】特開2007-222573号

【考案が解決しようとする課題】

【0003】

従来のダイオード入りてい針（図5で示す10）は、長さ約120ミリ前後で両端の直径は3ミリと10ミリでできており、本考案は接触面を長径40ミリと広く、長さを約20ミリと短くし患部に固定もでき、手に持ちながらも手技療法などと併用出来ることを目的としたものである。

【0004】

従来のダイオード入りてい針はテスターで測定すると導通しており、本考案はこの問題を解決しようとするものである。

【課題を解決するための手段】

【0005】

上記課題を解決するために、上部接触面（瀉的1）と下部接触面（補的2）を絶縁し、ダイオード（4）の整流作用を高め、さらに前記の上部接触面（1）、下部接触面（2）は広く、長さを短く、また患部への固定も容易にしたダイオード入り皮膚刺激療法器具を提供したものである。

【考案の効果】

【0006】

図1のように長さを短く、接触面を広く上部接触面（瀉的1）、下部接触面（補的2）が接着剤（8）で絶縁されダイオードの整流作用を利用したため、以前より治療効果を高めることが出来る。

【0007】

本考案のダイオード入り皮膚刺激療法器具は、電源が不要で使用回数にもよるが数年間は使用でき、場所を問わず使用することができる。

【考案を実施するために最良の形態】

【0008】

以下本考案の実施例を添付図面に基づいて説明する。

本考案のダイオード入り皮膚刺激療法器具は、図1で示す上部接触面金属（瀉的1）及び下部接触面金属（補的2）の黄銅製導電材からできている、図2に示すように上部接触面（1）の内部面及び下部接触面（2）の内部面にそれぞれダイオード（4）の特性を一方向に向けて溶接（5）したものである。そして図3に示す上部外筒部（6）及び下部内筒部（7）の隙間に接着剤（8）を入れ上部接触面（1）と下部接触面（2）を組み合わせで絶縁したものである。図4に示す上部接触面（1）及び下部接触面（2）の直径は約40ミリあり、また上部接触面（1）、下部接触面（2）の間は約20ミリの薄型となり、マジックベルト（登録商標）等で固定できるものとする。皮膚に傷を付けないように面取り（3）をほどこした、そして、上部接触面（1）下部接触面（2）の間に人差し指と中指を挟んでの皮膚刺激療法やリンパマッサージ療法も出来るものとする、さらに固定のみであれば20ミリ以下にも薄くできる、また図4に示す（9）は凹を付けることにより上部接触面（1）・下部接触面（2）を判別し視力のない方でも使いやすくしたものである、図5に示す従来のダイオード入てい針（10）は、長さが約120ミリ前後で局部治療には適していたが、固定治療には、120ミリでは、長すぎて固定治療には適してなかった、又内筒に入れるダイオードの本数を変えることで強弱がみられる。

【図面の簡単な説明】

【0009】

【図1】補導絶縁型ダイオード入り皮膚刺激療法器具を示す外観図である。

【図2】上部接触面部と下部接触面部に方向性を持たせてダイオードを溶接した断面図である。

【図3】上部外筒部と下部内筒部の隙間に接着剤を入れ、絶縁した図である。

【図4】本考案を実施した斜面図である。

【図5】従来のダイオード入りてい針約120ミリの外観図である。

【符号の説明】

- 1、上部接触面
- 2、下部接触面
- 3、上部、下部接触面の面取り
- 4、ダイオード
- 5、溶接部
- 6、上部外筒部
- 7、下部内筒部
- 8、接着剤
- 9、凹みをつけ上・下部接触面の区別
- 10、従来のダイオード入りてい針の外観